

社員が幸せな会社は 社長も幸せ



株式会社理舎 (広島県)
代表取締役
岡田政也 ● おかだまさや

病院をはじめとした医療機関の療養環境をトータルでサポートしています。病院や病室は無機質になりがちですが、患者さんにとっての居心地のよさや親しみやすさも大切だと考えています。より快適な療養環境によって病气やけがで苦しむ方々の不安や悩みをケアすることで、社会に貢献したいです。

父が始めた会社で、僕で二代目になります。といっても決してすんなり跡を継いだわけではなく、反発する気持ちもありました。自分で就職活動をして、工業用ゴムの販売会社で働いていました。ものすごく忙しくて、まともな休みが二カ月ないなんてこともザラでし

たが、やりがいがありましたし、尊敬できる上司もいたので、好きな仕事でしたね。氷河期世代なので、働けることのありがたさも感じていました。

そのうちに親から受けた恩を返したいという気持ちも芽生え、継ぐ決断をしました。自分が代表の立場になってみると、この会社はとてもいいものを持っているのに、それを発信することがあまりできていないと気づき、もったいないと思いました。そこで、ウェブサイトを整えたり、カタログもおしゃれで目を引くデザインにしたりと、基本的なところから変えていきました。それは顧客である

病院も同じではないかと考え、従来の事業に加えて、「患者さんを選ばれる病院づくり」もお手伝いさせてもらっています。

もう一つ、力を入れていることに、社員評価制度の透明化や公平化があります。それは、すべての社員を幸せにするため。社長は幸せだけど社員は不幸という会社は、残念ながら少なからずあると思うんです。でも、社員が幸せな会社は社長も幸せなんじゃないかなと僕は思っています。そういう会社なら、当然お客様も幸せなはずですよ。ですから、まずは社員の幸せを第一としてやっていきたいと考えます。

その際、下から順に、若い人から幸せになるべきだと僕は思っています。若い人がやりがいを持って仕事をすれば当然上司も助かるし、中間管理職にモチベーションを持ってもらうために管理職はいて、管理職のために役

員がいる。でもそれを勘違いしている人がたまにいて、役職が上がると、ふんぞりかえってしまような。僕は「役職の尺度は偉さの度合いじゃなくて責任の重さです」と説明するようにしています。

定年を迎えたときに「この会社に入ってよかった」とみんなに言ってもらえるようになるのが、僕の使命だと思っています。自分たちの仕事には社会的な意義や存在意義があり、誇りを持てる会社であること。そのためにいろいろと取り組んでいるつもりではあります。行き届きやすいところとそうじゃないところはどうしてもあると思います。会社としていいときと悪いときの波もあります。自分の力が足りていないとは思いますが、ただ、力を抜くことなくやり続けていけば、応えてもらえると思っていて、まだまだ道半ばですが、引き続きがんばっていききたいです。